



膝や股関節の痛みを解消する人工関節置換手術のニーズが高まっている。広島市に昨年6月、県内初となる人工関節専門の有床医療機関ができて以来、呉市でも相次いで診療部門が開設している。

患者からは、体にメスをできるだけ入れたくないという要望が多い。そんな思いを受けて開発されたのが傷口を最小限に抑える「最小侵襲手術(MIS)」。

人工関節置換手術にこの手法の導入が進んでいる。皮膚の切開はわずか7〜9センチで済み、体への負担も軽くなるという。

需要の高まりとともに、治療法の幅が広がり、患者のサポート態勢も充実してきた。MISのメリットや最新の手術方法、術後の注意点などを紹介する。

傷口最小限「患者に優しく」

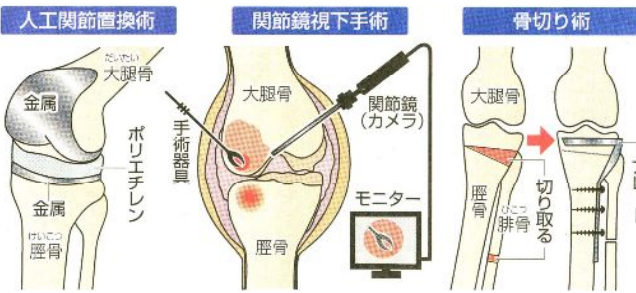
皮膚切開 7〜9センチ

入院期間短く手術後うずき軽減

最小侵襲手術(MIS)は、手術の際、皮膚や筋肉への切開をできるだけ少なくし、体への負担を最小に抑える。患者のためを思っ

た手術法だ。MISは、置換手術は、軟骨がすり減る変形性関節症の手術法だ。MISは、

変形性膝関節症の主な手術方法



MIS法と従来法の比較表	MIS法	従来法
皮膚切開の長さ	10cm未満(7~9cm)	10cm以上(15~18cm)
筋肉の切開	短い	長い
入院期間	短い(2~4週間)	長い(3~6週間)
筋力や可動域(注)の回復	早い	遅い
術後の痛み	軽い	強い
手術の難易度	高い(難しい)	低い(容易)
手術時間	やや長い(1.5~2時間)	1~1.5時間

(注)可動域…膝の曲げ伸ばしの角度のこと



MIS法と従来法の皮膚切開の長さの比較

関節リウマチの患者が、手術後のうずきを軽減する利点がある。また、入院期間も従来の3〜6週間に比べて2〜4週間に短縮され、手術費は変わらないが、短縮された入院期間分の費用は少なくなる。しかし、手術の難易度が増すという欠点もある。

退院後ここに注意 ひざまずき動作ダメ・定期受診を心掛けて

手術を受けたら、退院後の日常のケアが人工関節を長持ちさせる重要なポイントだ。次の点に注意しよう。

①ひざまずき動作をしない。正座や横座りなど床に直接膝をつける行為は、人工関節への負担が大きく、緩みの原因になることもあるので避ける。ベッドや椅子などでできるだけ洋式の生活を送る。

②適度な運動を続ける。ウォーキングや水泳など。

担当医師に相談して指示に従う。

③転倒防止のため、つまずく恐れのある小物などを片付け、じゅうたんなどはピンなどで固定する。浴室では座面の高い椅子を使うとよい。長いブラシがあると楽に洗える。

④定期受診をする。術後1年目までの期間は、3カ月、6カ月、9カ月、1年の受診。その後は問題がなければ、半年ごとに検診を受ける。

人工関節置換手術の患者などが対象。立ち上がりや階段の歩行時などに強い痛みを感じたり除くと同時に、変形の矯正や関節機能の回復も期待できる。

変形性関節症やリウマチ患者を専門的に診察する医療機関は、県内で相次いで誕生し、最新の治療法も開発されている。呉市ではこ

変形性関節症やリウマチ患者を専門的に診察する医療機関は、県内に相次いで誕生し、最新の治療法も開発されている。呉市ではこ

変形性関節症やリウマチ患者を専門的に診察する医療機関は、県内に相次いで誕生し、最新の治療法も開発されている。呉市ではこ

変形性関節症やリウマチ患者を専門的に診察する医療機関は、県内に相次いで誕生し、最新の治療法も開発されている。呉市ではこ

変形性関節症やリウマチ患者を専門的に診察する医療機関は、県内に相次いで誕生し、最新の治療法も開発されている。呉市ではこ

変形性関節症やリウマチ患者を専門的に診察する医療機関は、県内に相次いで誕生し、最新の治療法も開発されている。呉市ではこ

人工関節置換手術高まるニーズ 広島県内に相次ぐ 専門医療機関

最小侵襲手術(MIS)で人工関節置換手術を受けたいけれど、不安だとの声も多い。そんな読者からの質問を、県内で初めて開設された人工関節手術専門の有床医療機関「緑井整形外科 人工関節センター」(広島市安佐南区)の村田秀則院長に聞いた。

「最小侵襲手術(MIS)」読者からの質問

緑井整形外科 人工関節センター(広島市安佐南区)

村田 秀則院長に聞く

手術を受けた患者にリハビリのアドバイスをする 村田院長



MISのメリットとデメリットを教えてください。(広島市南区・主婦65歳)
皮膚の傷口が小さくなることで美容上の利点があります。術後の痛みが軽くなり、より早くリハビリを開始できます。機能回復も早まり、入院期間も短くなります。

機能回復より早く手術は1〜2時間 体への負担に配慮

デメリットは手術の難易度が増すとの指摘があります。皮膚の損傷や細菌感染の合併リスクもあるので、熟練の執刀医のものでないと、人工関節を関節内に入れるためのスペースも狭くなります。皮膚や筋肉の硬さなどさまざまな要因で、皮膚に負担がかかりすぎると判断した際は、健康保険の種類などによって変わります。手術は無理をせず、従来法に切り替える柔軟性も重要と考えています。

費用や器具の耐用年数が気になります。(広島市東区・無職男性68歳)
入院期間や患者の年齢、健康保険の種類などによって変わります。手術は無理をせず、従来法に切り替える柔軟性も重要と考えています。

手術を受ける際、MISが従来法かの選択をどのようにして決めるのですか。MISを受けた患者の反応は、(広島市中区・無職男性70歳)
当院ではMISを勧めています。しかし皮膚や筋肉への切開が少ない分、人工関節を関節内に入れるためのスペースも狭くなります。皮膚や筋肉の硬さなどさまざまな要因で、皮膚に負担がかかりすぎると判断した際は、健康保険の種類などによって変わります。手術は無理をせず、従来法に切り替える柔軟性も重要と考えています。

手術の耐性は、痛みはどれくらいになりますか。(広島市安佐北区・主婦60歳)
問診と診察、画像検査で人工関節が必要かどうかを診ます。どれほど生活に不自由を感じているかが重要で、痛みがそれほど強くない段階で手術すると、術後の痛みが強くなる傾向があるので、症状が軽ければ、手術を勧めません。手術は1〜2時間。痛みはほと

んどなくなくなり、かなり高い確率で患者の希望にかなうと思います。

手術が望まれます。手術を受ける際、MISが従来法かの選択をどのようにして決めるのですか。MISを受けた患者の反応は、(広島市中区・無職男性70歳)
当院ではMISを勧めています。しかし皮膚や筋肉への切開が少ない分、人工関節を関節内に入れるためのスペースも狭くなります。皮膚や筋肉の硬さなどさまざまな要因で、皮膚に負担がかかりすぎると判断した際は、健康保険の種類などによって変わります。手術は無理をせず、従来法に切り替える柔軟性も重要と考えています。

手術の耐性は、痛みはどれくらいになりますか。(広島市安佐北区・主婦60歳)
問診と診察、画像検査で人工関節が必要かどうかを診ます。どれほど生活に不自由を感じているかが重要で、痛みがそれほど強くない段階で手術すると、術後の痛みが強くなる傾向があるので、症状が軽ければ、手術を勧めません。手術は1〜2時間。痛みはほと

手術の際、輸血が必要な場合もあると聞きました。感染症が心配です。(広島市中区・主婦66歳)
輸血の際、他人の血液ではアレルギーなどの症状を起こす危険性はあります。自己血輸血なら血液を介した感染症を防げます。術前に自身に輸血する方法と、術後に患部からの出血を回収して、処理した後に輸血する方法があります。担当医に相談してください。

手術の際、輸血が必要な場合もあると聞きました。感染症が心配です。(広島市中区・主婦66歳)
輸血の際、他人の血液ではアレルギーなどの症状を起こす危険性はあります。自己血輸血なら血液を介した感染症を防げます。術前に自身に輸血する方法と、術後に患部からの出血を回収して、処理した後に輸血する方法があります。担当医に相談してください。

手術の際、輸血が必要な場合もあると聞きました。感染症が心配です。(広島市中区・主婦66歳)
輸血の際、他人の血液ではアレルギーなどの症状を起こす危険性はあります。自己血輸血なら血液を介した感染症を防げます。術前に自身に輸血する方法と、術後に患部からの出血を回収して、処理した後に輸血する方法があります。担当医に相談してください。